

2026 年 2 月 2 日開催
2026 年 3 月期第 3 四半期決算説明会での主な質疑応答

Q1. 第 3 四半期に発生した製品ミックスの悪化とは何か？一過性なのか？継続するのか？

利益商材である「じゃがりこ」は原材料制約により販売数量が減少した。その売上をリカバリーするためにシリアルやその他スナックを拡売したが、製品ミックスにより利益額が悪化した。第 4 四半期も継続すると見込んでいる。

Q2. 国内の利益見通しについて、第 4 四半期の増益は達成できるのか？

修正計画で掲げた営業利益 260 億円の目標に変更はない。ばれいしょ品質については今後も注視が必要ではあるが、バランスの取れた水準と判断している。製品ミックスの悪化は継続するが、2 月より販促解禁を行い、修正計画の売上を上回ることによって 260 億円の営業利益計画達成を目指す。

Q3. 販促解禁にあたり、ばれいしょの状況に変更はあるのか？

ばれいしょの収量はほぼ見込み通りだが、比重などの品質は想定より上振れる見込みのため、販促解禁を判断した。

Q4. 第 4 四半期の増益予想の背景は？

国内は、せとうち広島工場の減価償却費が一巡し、順次稼働を上げてきたことによる利益増を見込む。加えて、マーケティング費用等のコスト削減の継続、業績予想修正に伴う賞与引当金の取り崩し、販促費の四半期計上変更の影響が増益に寄与する見込みである。

海外は、第 3 四半期からのモメンタムは変わらない。前期の第 4 四半期からの反動増もある。海外全体としては修正計画レベルと見込んでいる。

Q5. 来期は増益が達成できるのか？

来期計画は現在作成中で具体的な数値は開示できない。国内は、当期順次稼働したせとうち広島工場の稼働増が見込め、生産性も徐々に上げていく。海外についても売上成長に伴う利益増加を目指し、今期課題である英国・インドネシアの収益性も改善を図っていく。1 月 29 日発表したペルフェッティ・ヴァン・メレ社の独占販売代理店契約による売上・利益貢献も織り込んでいく。

Q6. 来期の値上げの考え方は？

来期も原材料等の変動費が上がるものについては、価格・規格改定により適宜打ち返していく。利益率が悪い商材については、個別に適時適正に見直していく。

Q7. 段階的に値上げをする中で、シェアが下がっていることをどう評価するか。

構造的に売り負けているわけではないと認識している。

以上